

27) 救急科

1. 診療体制と患者構成

1) 診療科スタッフ（講師以上）

松田 博青（名誉教授）
山口 芳裕（教授、診療科長）
島崎 修次（名誉教授）
松田 剛明（教授）
山田 賢治（准教授）
樽井 武彦（准教授）
宮内 洋（学内講師）

2) 常勤医師数・非常勤医師数

常勤医師数：16名

3) 指導医数、専門医数、認定医数

日本救急医学会 指導医： 4名 専門医： 6名
日本集中治療医学会 専門医： 1名
日本外科学会 指導医： 2名 専門医 1名
日本熱傷学会 専門医： 3名
日本循環器学会 専門医： 1名
日本脳神経外科学会 専門医： 1名
日本放射線科学会 専門医： 1名
日本整形外科学会 専門医： 2名
日本手外科学会 専門医： 1名
日本麻酔科学会 認定医： 1名

4) 診療実績

3次救急医療を専門とする部署Trauma & Critical Care Center（TCC）を主として、重症の救急患者の診療を行っている。平成26年度における3次救急搬送患者数は合計1845名であり、1,355名がTCC病棟の集中治療室に重篤な病態で入室した。重篤な患者の内訳は、来院時心肺停止（C P A）患者が、355名、重症循環器系疾患300名、重症中枢神経系疾患259名、重症急性中毒95名、重症外傷135名、重症呼吸器疾患75名、重症消化器疾患36名、重症感染・敗血症17名、重症熱傷17名、その他66名であった。（図）。

2. 先進医療への取り組みおよび低侵襲医療

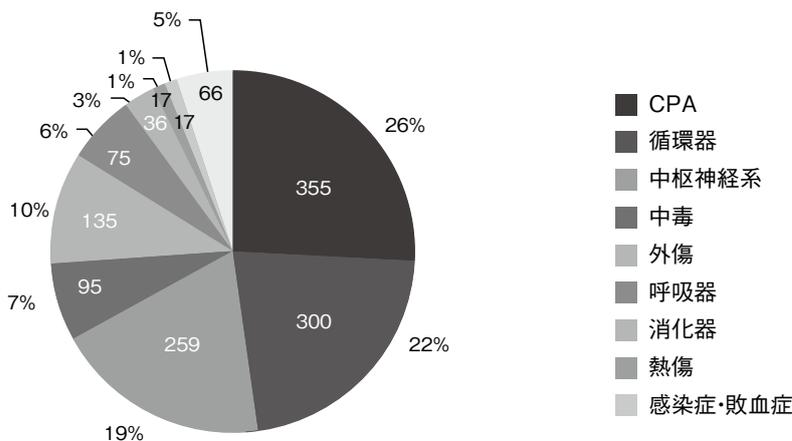
目撃者のある心肺停止患者に対して、経皮的な心肺補助療法（PCPS、Percutaneous Cardio Pulmonary Support）を用いた心肺蘇生療法、蘇生後の低体温療法を積極的に取り入れている。また、多発外傷患者様の腹部実質臓器損傷に対する血管IVR（インターベンショナルラジオロジー、放射線学的手技を応用して行う治療法）として動脈塞栓術（Transcatheter Arterial Embolization; TAE）を積極的に施行している。そのほか、多発外傷に対する経皮的な大動脈遮断術を利用した治療や、重度不安定型骨盤骨折の集学的治療、多発肋骨骨折（フレイルチェスト）に対する肋骨固定術を積極的に行っている。重症顔面外傷に対する急性期治療、脊椎・脊髄外傷の急性期全身管理、気道熱傷を含む広範囲熱傷の集学的治療、間接熱量計を応用した重症患者の栄養管理も行っている。

当高度救命救急センターでは、重症上部消化管出血に対する内視鏡的クリップ止血術、適応のある急性・慢性呼吸不全患者様に対するマスク式陽圧人工呼吸（NIPPV、Non -invasive Positive Airway Pressure Ventilation）も積極的に行っている。重症外傷に対する救急医療領域にとどまらず、敗血症、多臓器不全を来した重症患者様、重症急性膵炎患者様に対する血管・非血管IVRを含む集学的治

療など、内科的重症疾患に対する先進医療も積極的に行っている。

研究費業績

1. 山口芳裕（代表者）：消防防災科学技術研究推進制度
「福島第一原発での教訓を踏まえた突入撤退判断システムの開発」
2. 山口芳裕（分担）：科学研究費助成事業
「ウェーブレット変換に基づく心電図波形の高精度識別システムの実用化に向けた検証」
3. 地域への貢献
講演 山口芳裕：「災害現場の医療」. 都立広尾病院, 東京, 平成27年 9月17日
講演 山口芳裕：「NBC養生訓練」. 都立広尾病院, 東京, 平成27年10月13日



患者推移等については「Ⅲ. 高度救命救急センター 参照」

3. その他の高度の医療

医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者に対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	骨盤骨折に対する集学的治療	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 骨盤内血管損傷に対するTAEと創外固定器装着によるDCO			
医療技術名	腹部実質臓器損傷に対するIVR（侵襲的放射線学的治療）	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 TAEにより止血し開腹手術を回避、腹部実質臓器の温存を図る			
医療技術名	重症顔面外傷に対する急性期の治療	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 緊急気道確保（輪状甲状靭帯切開、気管切開を含む）を行い、呼吸の早期安定を図る			
医療技術名	間接熱量計を応用した重症患者の栄養管理	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 主に重症熱傷患者に応用し適切な栄養管理を施行			
医療技術名	経皮的心肺補助療法（PCPS）	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 目撃者のある心肺停止患者や重症心原性ショックに対する心肺蘇生療法として行っている			
医療技術名	重症上部消化管出血に対する内視鏡的クリップ止血術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 潰瘍底部の露出血管などの出血部位に内視鏡的にクリップをかけ止血を図る			
医療技術名	経皮的動脈遮断術を利用した重症外傷治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 腹腔内や後腹膜腔出血を一時的に制御し、IVRや開腹手術にて止血を図る			